

令和5年度 卒業証書・修了証書授与式 校長式辞

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。

人間として最も成長する可能性の豊かな時期に5年間、専攻科もあわせれば7年間の集中的な勉強をする高専教育という枠組みは、決して生易しいものではありません。

皆さんは、それぞれに苦労をされたと思います。様々な思いが皆さんの胸に去来していることと思いますが、いま達成感をかみしめているのではないのでしょうか。皆さんは、それだけのことをやり遂げたのです。どうか今日の幸せと充実感、達成感を忘れないでください。私は、皆さんが高専の勉強を全うしたことに最大の賛辞を送ります。心からよくやったと申し上げます。

また、この式に参加しているメンバーの中には、マレーシア、カンボジア、からの留学生2名が含まれています。祖国を離れて秋田で勉強をやり通した留学生の皆さんには、特に強調してお祝いを申し上げます。おめでとうございます。皆さんの奮闘に心からの敬意を表します。

これから先の皆さんの人生では様々なことがあると思います。人間には先のことはわかりません。だから不安になることもあります。一人ぼつんと取り残されたような気持ちになることだってあるでしょう。そんな折々に、落ち着いてよくよく秋田高専での日々を思い返してみることをお勧めします。世間に流通する情報に振り回されるよりは、自分が勉強してきたことや体験から、生きていく手がかりを探した方がよいと思うのです。

あのとき先生があんな事を言っていた。友達であんな工夫をしていた人がいた。授業で、卒業研究をする中で、また部活動や友達との交流の中で、皆さんが秋田高専で重ねた経験から、小さなことでも思わぬヒントになることがあります。

そしてなにより、学校や故郷を思い出し、きっと心が落ち着くことでしょう。故郷や母校の思い出が、皆さんにとっての心の土台になります。心の拠り所ということでしょうか。

秋田高専は、皆さんにとっては大きくいえば故郷です。秋田高専の仲間は、大きくいえば家族です。

心の拠り所を持つ人間は強く、くじけない。そして、自信をもって新しいことに挑戦できます。是非秋田高専のことを思い出して生きていく活力の源にしてください。

皆さんはまだ若く、これから先もまだまだ勉強です。決して慌てることなく、謙虚に平常心で進んでほしいのですが、人生のハンドルを握るのは皆さん自身であることだけは忘れないでほしい。自ら考えない、誰かに言われるのを待つ、全力を出さないでその場をやり過ごす、そんな退屈な人生のために皆さんは勉強してきたのですか。違うと思います。

皆さんは、今までの勉強をもとにして自分の力で人生を切り開いていかなければいけない。まさに「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」です。

これからは、職場でも進学先でも、自分で課題を見つけて、自分で工夫をしてみて、先輩や仲間と相談して力を合わせて解決していくプロセスの繰り返しになります。そうした一人一人のプロセスの集合したものが社会です。皆さんのこれからの奮闘が社会と繋がっていることを忘れないでください。社会が自然に変化するのではなく、一人一人の力の総和が社会の進歩となります。

チャンスの前に尻込みすることなく、自信をもって真正面から取組んでください。皆さんなりに知恵を絞って工夫をこらして、大きな花を咲かせてください。

秋田高専が「自立 挑戦 創造」という教育目標を掲げているのは、皆さんが高専を出た後に、自立し、挑戦し、世のため人のために何事かをなす、つまり創造することのできる人間になることを目指していることです。

皆さんが秋田高専で学んだこと体験したことを土台として、視線を高く保って胸を張って進んでいくことを期待します。

秋田高専は、今年で創立 60 周年を迎えました。

卒業生・修了生の皆さんは、秋田高専を巣立っていった先輩方の列に加わります。長い列の最後に加わるのです。その後に皆さんの後輩が続きます。

では、皆さんにとってのこれからの 60 年はどんな 60 年になるのでしょうか。60 年後に秋田高専は、秋田は、日本はどうなっているのでしょうか。

想像するのは楽しいことです。しかし、漠然とあれこれ心配して思い悩むことはやめましょう。意味がありません。なぜなら、60 年後を作るのは皆さんだし、皆さんしただからです。

秋田高専の校長として、皆さんの光輝ある人生を信じて、皆さんを送り出すことにします。